

令和 6 年

第 1 回防府市議会定例会

一 般 質 問

3 月 5 日（6 人）

1 河村 孝・2 今津 誠一・3 梅本 洋平・4 山田 耕治
5 宇多村 史朗・6 石田 卓成

3 月 6 日~~（6 人）~~（5 人）

7 藤村 こずえ・8 村木 正弘・9 青木 明夫・10 久保 潤爾
11 田中 健次・12 ~~高砂 朋子~~

3 月 7 日（5 人）

13 三原 昭治・14 和田 敏明・15 清水 力志・16 吉村 祐太郎
17 河杉 憲二

No.	1	河村 孝
質 問 事 項		要 旨
1	農福連携促進事業の推進について	障がい者が農業を通じて社会参加する農福連携促進事業が今年度から、本格的にスタートした。 人手不足など農業が抱える問題の解決、また、障がい者の生きがいや就労へのきっかけづくりなどによる活躍の場の拡大など、様々な効果があり、さらなる事業展開やマッチングの推進が求められている。 本市として、今後の事業をどのように推進するのか、ご所見を伺う。
2	市民活動の推進について	本年度、防府市市民活動支援センターは２０周年を迎えた。現在、約２００団体の市民活動団体・個人の登録があり、センターでは、多様な属性のつながりの地域づくりを協働推進事業の一つとして取り組んでおり、市内在住の高校生や大学生を中心とした若い方との交流を多方面から取り組まれている。 本市として、今後の市民活動をどのように推進するのか、ご所見を伺う。
3	アライグマについて	特定外来生物であるアライグマの被害が、広がっている。農作物への被害から、住宅密集地での民家の屋根裏に入り込み住み着く事例が発生している。伝染病による、人への健康被害も心配される。 駆除に関しては、専門業者に委託するしかないが、県外業者になる場合もあり、費用は高額になる傾向がある。 本市として、アライグマ対策をどのように考えるのか、ご所見を伺う。

No.	2	今津 誠一
質 問 事 項		要 旨
1 防府市が目指すべき農業		昨年１２月議会で、これからの目指すべき農業という題目で質問。 日本の農業はさまざまな理由で厳しい状況に陥っているが、今後は若い世代を中心に新たな価値観に基づいた農業にチェンジするだろう。 今後目指すべき農業とはどんな姿の農業を想定しているかを尋ねた。 今回、改めて広い視野から、世界の農業そして日本の農業を取り巻く諸問題を俯瞰し、日本がそして防府市が目指すべき農業について尋ねる。 具体的質問は以下の通り。 (１) 後継者問題をどのように解決するか。 (２) 自給率が低い原因は何と考えるか。向上させるためにどうすればいいか。 (３) 持続可能な農業へ転換するにはどうすればいいか。安全な食料を確保するにはどうすればいいか。 (４) 世界と比べて農業保護度が低いことが、日本の農業の衰退を招いている面が強いと思うが、どう思うか。 (５) アメリカによる日本農業の浸食に対しどうすべきと思うか。 前回要望した５項目について １ 農地の確保 ２ 低コストの農業の選択 ３ 所得保障の充実 ４ ＪＡとの共同 ５ 産業振興部と総合政策部の共同

No.	3	梅本 洋平
質 問 事 項		要 旨
1	令和6年度当初予算について	令和6年度予算編成にあたっては、これまでにない財源不足が見込まれており、大変厳しい舵取りが予想された。 令和6年度当初予算を拝見すると、「輝き！ほうふプラン」に掲げる新庁舎建設や広域防災広場整備などの防災ネットワークの構築をはじめとしたまちづくりが着実に進められ、また、こども家庭センターの整備など子どもたちへの予算についてもしっかりと盛り込まれている。 さらに、能登半島地震災害を踏まえての防災対策の充実などについても、しっかりと組み込まれた予算として編成されている。 このため過去最大規模となった令和6年度当初予算について、その予算に込めた市長の思いを伺う。
2	陣痛タクシーへの取り組みについて	妊婦さんの困りごと、悩みは様々だが、その一つに「陣痛時の移動手段」がある。 妊婦さんたちの悩みは、 ・陣痛が来た時に病院まで連れて行ってくれる人がいるか ・タクシーを呼んだ場合すぐに来てくれるか ・到着したタクシーが陣痛の妊婦を受け入れてくれるか（これはネットの口コミで、嫌がられる・断られるといった事例が報告されているため） ・陣痛の痛みの中で、自分の住所の説明やかかりつけ医までの誘導、お金の支払いができるか ・移動時に破水が起こりタクシーを汚してしまわないか などがある。 全国の自治体を見てみると陣痛時の妊婦さんの移動に特化した「陣痛タクシー」の取り組みを行っている自治体がある。 陣痛タクシーとは、事前に氏名、電話番号、住所、出産予定の病院、出産予定日、初産か経産かなどの情報を市またはタクシー会社に登録することで、陣痛時には優先的に配車を行うシステムで、事前に登録をしているため自分の住所や、行先の病院も告げる必要はない。わが市における切れ目のない支援の中に「陣痛タクシー」を検討してみてはどうか。

No.	4	山田 耕治
質 問 事 項		要 旨
1	三田尻塩田記念産業公園の整備について	(1) 来園者数の推移と公園内の施設の整備状況は？ (2) 国指定重要有形民俗文化財の今後の対応と、管理方法は？また、文化庁指定の登録有形文化財となっている「釜屋煙突」は傾いているが、今後の管理は？ (3) 塩田（昭和47）がすべて廃止される前の製塩方法で、小枝などを階段状に吊るした枝条架と組み合わせる「流下式」も反映されていた。市の歴史教育の中で、体感用のレプリカも考えてみては？
2	不法投棄について	(1) 毎年、二桁の相談件数があると、以前、答弁されたが、ここ数年の不法投棄に対する相談件数の状況は？ (2) 不法投棄抑制のための看板設置について、以前、河川や道路等、所管する課で看板を管理できるようにしていただいたが、近年の看板設置件数と、その後の管理や取り組み状況は？ (3) 市内でトラック等の車両が駐停車している箇所の改善や抑制に対する考えは？
3	公民館の防犯対策について	(1) 公民館を利用される方の人数の推移は？また、利用目的で多いのは？ (2) 防犯に対する取り組みについては、これまで様々な角度で質問してきたが、市は真摯に受け止め対応をしてくれている。そのような中で、もう一步、踏み込んだ考えや取り組みも必要ではないか？そこで、各公民館への防犯カメラの設置も必要と考えるが如何か？ (3) 不審者対応として、「さすまた」の整備や防犯訓練の実施状況は？

No.	5	宇多村 史朗
質 問 事 項		要 旨
1	今後の防災の取り組みについて	昨年9月議会で大雨への対応について質問し、今後の取り組みについての力強い回答をいただいたところであります。 本年1月1日に能登半島地震が発生しました。 防府市においても、大雨への対応に加え、南海トラフ地震などを想定した地震への取り組みも必要と考えますが、さらなる防災力の強化に向けた取り組みについて伺います。
2	防府市の観光振興について	今年の秋には防府市に瑞風が立ち寄ることが決定しました。 本年1月9日に、アメリカのニューヨークタイムズが「2024年に行くべき52カ所」を発表し、日本から唯一「山口市」が選ばれました。 これらは、防府市の観光にとって大きなチャンスとなると考えますが、今後の観光振興にどのように取り組んでいくのか伺います。

No.	6	石田 卓成
質 問 事 項		要 旨
1	能登半島地震のような人災を、二度と繰り返さないために	被災地の能登半島へは、発災直後より、自衛隊や緊急消防援助隊・警察など、多くの関係機関が現場に入り、懸命の救助活動を行っていただきましたが、指揮をとる県行政の機能不全や、関係機関の連携不足により混乱が続きました。 なぜ、プロであるはずの、これらの機関に当たり前の災害対応が出来ないのか。一体どのような出来ない理由があるのかと悩み続け、1月4日から5日にかけては、党を通じて政府に対しての申し入れを行うように依頼をしたところです。その内容につきましては、被災地への一般車両乗り入れ制限や、全ての孤立エリアに無線機を持った複数名の情報収集目的の隊員をヘリのホイストを利用して送り込むこと、物資運搬はヘリが着陸できない狭い場所にもホバリングしたままの状態で物資を届けられるスリング吊り下げ運搬方式で行うこと、海上自衛隊の輸送艦甲板をヘリでの物資運搬拠点とすること、現地の解体業者が所有するハサミ付ユンボやプロのオペレーターの積極活用をお願いしたところです。 今回の活動の大失敗によって多くの命を失ってしまった原因を、しっかりと検証し直ちに対策をしなければ、次なる大震災でも同じ失敗を繰り返すことになるのですが、政府として、今回の活動が失敗だったと認識できているのかという疑問をもっております。我が市が、過去に豪雨激甚災害を受けた時もそうでしたが、事後検証をする際に、どうしても不都合なことは隠そうとする力が、組織には働いてしまうものです。既に、現場の隊員達は、何が問題だったのかを、きちんと認識できているはずです。今回の場合では、石川県や政府が不都合な事実を隠そうとしなければ良いのだがと心配をしています。 このような事後の検証では、責任者の過失を追及するという目的ではなく、どうやって次の災害対策に活かすのが大切なのですが、現在のところ、政府の側からは、そのような動きが見られず残念に思っています。 そこで以下の10点について、執行部のご所見を伺います。 (1) 発災直後の被害状況の把握方法について (2) 道路が寸断し、救助隊が現場に辿り着けない場合の対策について (3) 関係機関や災害時応援協定を締結している民間団体との連携について (4) 入札制度による重機不足の課題の解決に向けて (5) 支援物資をお届けする際の、ヘリのフル活用について (6) 関係団体との合同訓練と事後検証について (7) 水道・下水道インフラの整備と耐震化及び、無電柱化の推進について (8) 自衛隊員の処遇改善について (9) 119番の受付について (10) 重機を所有しておられる消防団員との連携について

No.	7	藤村 こずえ
質 問 事 項		要 旨
1 子育て支援の充実について		市はこれまで市独自の子育て支援策として「ほうふっ子応援パッケージ」や、子どもの安全対策、学校環境の整備など、様々な子育て施策を講じ「防府は子育てしやすいまち」という多くの声も聞いている。 さらに、新年度においては高校生までの医療費無償化や、「こども家庭センター」の開所も進められるとのことだが、他市も子育て支援に力を入れてきている現状において、本市においてもこれまで以上の更なる子育て支援の充実が必要と考えるが、どのように考えているかご所見をお伺いする。
2 市街化区域の見直しについて		本市の都市計画区域は無秩序な市街化を防止し計画的な市街化を図るため、市街化区域と市街化調整区域に区分する区域区分制度を導入しており、その区域区分については、見直しが行われている。 一方で、現状を見ると、市街化調整区域でありながら、宅地化が進んでいる地域が散見される中、今後、区域区分の見直しをする必要があると考えるがご所見をお伺いする。

No.	8	村木 正弘
質 問 事 項		要 旨
1	安全・安心な飲用水の確保について	中山間地域である小野地域では、生活に必要な水は各世帯が井戸を設置し確保している。しかし冬季における地下水位低下による未給水地域での井戸水の枯渇が発生しているとの話がある。その再掘削費用が負担となっている。家庭用飲用井戸等の設置・維持管理に要する費用の補助金の創設について伺う。
2	スポーツのまち防府におけるスポーツ振興について	スポーツ協会設立１００周年の記念すべき１年が始まった。様々な記念にふさわしいスポーツイベントに大いに期待している。引き続きスポーツのまち防府が輝き続けるため、今後のスポーツ振興にどのように取り組まれるのか、以下２点を伺う。 (１) 更なるスポーツ振興を図るためには、本市の優れたスポーツ資源を十分に活用し、交流人口を増やす必要がある。そのためには、各関係機関との連携が必要と考えるが、その推進についてご所見を伺う。 (２) 次の１００年のスポーツ振興に向けて、将来を担う子どもたちのスポーツ環境の整備は重要と考える。どのように取り組んでいかれるのか伺う。

No.	9	青木 明夫
質 問 事 項		要 旨
1 公民館の整備について		地域が一体となった自主的・主体的な地域づくり、連帯意識を持った団体間の横の連携の取れた地域づくりを目指すうえで公民館が必要不可欠です。 高齢化等により様々な地域課題が顕在化しており、地域だけでは解決が難しい課題については、市としての支援や地域に定着している公民館の役割は、一層重要になってくると考えます。今回の能登半島地震の現地報道を見ても、地域住民の安心・安全を支える拠点施設としての公民館の防災機能は、必要と考えます。 今後、市はどのように公民館の建替えに取り組まれるのか、お伺いします。
2 ダブルケアラーについて		育児期にある人が同時に親の介護も引き受けるという「育児と介護のダブルケア」を担う人をダブルケアラーと言います。近年の晩婚化・晩産化等を背景に増加しています。経済の担い手として女性の活躍を更に促進するとともに、働き方を改革していくことが求められる中、ダブルケア問題が指摘されるようになってきています。 以下についてお考えをお聞かせください。 (1) 市内での実態把握について (2) 育児・介護 孤立防ぐ支援策について

No.	10	久保 潤爾
質 問 事 項		要 旨
1 観光振興について		ニューヨークタイムズが1月に「2024年に行くべき52か所」を発表し、山口市が3位に選ばれた。 山口市内でのインバウンドの大幅な増加が見込まれるが、これらの観光客を防府市に誘導できれば、防府市の観光振興に大きく貢献することとなる。 この機会を最大限に活かすべきだと考えるが、執行部はどのような見解をお持ちか。
2 ため池について		農業用水の確保以外に、防災、環境保全など多面的機能を有しているため池だが、管理者の高齢化、管理する組織の弱体化などにより、維持が難しくなっていく箇所が増えることが予想される。 ため池に対する執行部の現状認識と、今後の対策について伺う。

No.	1 1	田中 健次
質 問 事 項		要 旨
1	災害対策について	(1) 旧耐震基準の住宅については、耐震改修を促進することが必要だが、今後の施策展開として、どう考えているのか。 (2) 災害廃棄物の仮置場は、どの程度確保されているのか。 (3) 女性・妊産婦・幼児向け用品の備蓄は、どの程度確保されているのか。
2	不登校について	(1) 防府市の小・中学生の状況と市の施策について伺う。 (2) 文化福祉会館解体に伴い、オアシス教室は今後どうなるのか。 (3) 注目されている「学びの多様化学校」(不登校特例校)の設置について、どう考えているのか。
3	ひきこもり支援について	(1) 防府市のひきこもりの状況について、どう把握し、市の施策はどうなっているのか。 (2) ひきこもり支援の拠点や居場所づくり等について、どう考えているのか。

No.	1 2	高砂 朋子	【取り下げ】
質 問 事 項			要 旨
1	未来を拓く児童生徒への支援について		(1) 一人ひとりに光をあてた誰も置き去りにされない教育を行うため、通常の学級での学習や集団での生活が困難となった不登校等の児童生徒に対する支援が重要。オアシス教室やステップアップルーム等の本市の取組を伺う。 (2) 子ども達の健やかな成長のために、市教育委員会と保育事業である留守家庭児童学級や留守家庭児童クラブとの連携が重要。本市の取組を伺う。 (3) 安全・安心の学校給食を提供するために、調理機器のチェック体制の強化を図ると共に、老朽化対策、更新が重要。本市の取組を伺う。
2	災害時のトイレ対策について		災害時のトイレ確保は、時間経過、被災状況に応じて良好なトイレ環境を切れ目なく提供する事が重要。本市の取組を伺う。
3	市営住宅の保証人の取り扱いについて		近年、身寄りのない単身高齢者が増加。市営住宅を希望しても、入居に際して保証人の確保が困難になることが懸念される。保証人の廃止や法人による保証制度の導入を検討すべきでは。本市のご所見を伺う。

No.	13	三原 昭治
質 問 事 項		要 旨
1	中学校部活動の地域クラブ への移行について	これまで教育活動の一環として実施してきた中学校の部活動の運営が、文部科学省の方針によって地域クラブの移行が決まり、防府市教育委員会では計画を進めています。この案件については、これまでも一般質問をさせていただきましたが、移行計画について現在、どのように展開されているのか、進捗状況をお尋ねします。
2	クマ出没騒動における危機 管理について	今年1月、右田ヶ岳麓周辺において、クマと思われる出没情報が寄せられ、地元住民は恐怖と不安などから騒然となりました。この事態において、防府市として地元住民の安全・安心の確保など、危機管理の見地からの対策、対応。また、今回の事案に対する対策、対応について、どのように取り組み、今後、どのように取り組んでいくのか、お尋ねします。

No.	14	和田 敏明
質 問 事 項		要 旨
1 防災について		(1) 耐震化について 昭和56年5月31日以前に建築された木造住宅の耐震化率は。 耐震化率を向上させるための対策は。 上水道の耐震化率、公共下水道の耐震化率は。 (2) 指定緊急避難場所の整備状況について ハード面・ソフト面での整備状況は。 (3) 避難場所の対応と周知について 段ボールベットや毛布、トイレや食事等、避難時の対応は。 民間企業の避難場所等は市民への周知されているのか。

No.	15	清水 力志
質 問 事 項		要 旨
1	道路の維持管理について	(1) 道路に書かれている外側線・中央線・横断歩道などの区画線が消えかかっているのが市内各地で見られる。 今後、どのような計画で補修をしていくのか。 (2) 下水道のマンホールの縁の舗装が落ち込んで段差が生じ、通行に支障をきたす場合がある。 市内でも点検を行い、補修をする必要性があるのではないかな。
2	国民健康保険について	(1) 物価高騰の下で市民が負担に感じている国民健康保険料について、基金の一部を活用して引き下げを行うべきと考える。18歳までの子供にかかる均等割を免除する制度を作るべきではないかな。 (2) 政府は令和6年12月2日に現行の健康保険証の発行を停止し、マイナンバーカードと健康保険証を一体化したマイナ保険証に移行するとしているが、マイナンバーカードを持たない人に対しても困らないような対応を取って頂きたいがどうか。
3	介護保険について	(1) 防府市の第9期保険料基準額が引き上げられているが、基金を活用するなどして引き下げはできなかったのか。 (2) 介護保険のサービス利用料について、自己負担が2割となる人の対象を拡大しようとする動きがある。防府市でも独自で利用料の助成を行うべきではないかな。

No.	16	吉村 祐太郎
質問事項		要 旨
1	プレミアム付商品券等のデジタル化について	現在、防府市はプレミアム付商品券等を紙で発行しているが、デジタル化する事で、利便性や発行までのスピードが向上するが検討してみてはいかがか？
2	UJIターン促進事業について	現状の制度でどのくらいの効果が出ているのか。 また、テレワークの普及によって多様な働き方に合わせた制度設計になっているのか。

No.	17	河杉 憲二
質 問 事 項		要 旨
1 次期総合計画について		令和6年度の予算の編成において、基本方針の1つとして、「厳しい状況下にあっても、重点プロジェクトについては、令和7年度に確実に達成できるよう、令和6年度に必要となる施策を計上すること」とされた。 この度発表された予算の概要において、進むまちづくりやほうふの未来を担うこども達への応援が具体的にわかりやすく示されるなど、令和7年度までの総合計画に掲げる重点プロジェクトの確実な達成に向けて、市長の意気込みを感じるところであり、同時に、次の5年間の本市のまちづくりに期待が膨らんでいるところ。 そこで、令和8年度からの第6次総合計画について、執行部のご所見を伺う。

